

# 私 の 工 夫

## 地域と連携した 食育活動の取組

県立津山高等学校

教諭 難波 智子



### 1 はじめに

本校は、創立122年目を迎える歴史と伝統のある高等学校である。平成27年には県北初の併設型中高一貫校として県立津山中学校が開校し、思考力・発信力を伸ばし主体性を身に付けること、結果を恐れず積極的にチャレンジする精神を高めること、自律する力と思いやりの心を深めることを目指して教育活動を進めている。

現在、1学年に普通科5クラス、理数科1クラスの240名が在籍し、上級学校への進学を目指して、勉強や部活動、学校行事に意欲的に取り組んでいる。そのような中、食生活の面で、朝食をとっていない、食事が偏り、食生活のバランスに偏りがあったり、生活体験の乏しい生徒も見

られ、地域の伝統食、地元の特産物、旬の農産物についても関心が低く、家庭における調理経験の少なさが感じられる。

そこで、家庭科の授業や学校家庭クラブ活動を通して、自分自身の生活や家庭、地域に関心を持ち、意欲的に取り組める生徒の育成を目指し次のことに取り組んだ。

### 2 地域に学ぶ

#### (1) 大学との連携

美作大学・短期大学部 桑守正範教授による「発酵食品と微生物の関わり」についての講演会を実施した。生徒たちは、様々な微生物によって作られている食品が、自分自身の身の回りに多く存在していることに気づき、発酵食品の作り方や日本の食文化にも大変興味を持つことができた。微生物の

働きによる発酵や腐敗の仕組みについてさらに深く研究したいという意欲の向上が見られ、科学的な視野が広がったのではないかと考

#### (2) 企業、美作保健所との連携

地元の企業の方や美作保健所の方を講師に、「地域の食材を生かした味噌作り」や「米粉を活用した料理」「高校生の野菜たっぷり朝ご飯」「和食を学ぶ寿司作り」など、様々な講習会を実施している。地域の方々に実際に実技指導をしていただくことで、自身の食生活の課題に気づき、バランスのとれた食生活を送ることの大切さに気づいたり、発酵食品



津山の特産物「ごんご豆」を使った発酵食品作り

を取り入れた日本型食生活を見直したりするきっかけとなっている。

#### (3) 保育所、幼稚園との連携

家庭科で学んだ知識を生かし、様々な食育教材の開発をしている。食糧自給率向上を啓発し、地産地消、米消費拡大、地域の郷土料理などを幼児にわかりやすく説明する教材として「食育紙芝居」や「地産地消食育カルタ」を製作した。また、旬の野菜を盛り込んだ歌やダンスを考え、CDにして地域の幼稚園などに配布した。このようなオリジナル食育教材を活用しながら、長期休業中や土曜活用講座後などにボランティア活動を実施している。



幼児へ食育紙芝居の読み聞かせを行う本校生徒



地産地消食育CD「どんな野菜がとれるかな？」



食育紙芝居「かたみくと十六夜山の仲間たち」

#### (4) 委員会活動との連携

保健委員会との連携では、食生活だけでなくメディアの利用時間と健康について調査した。その結果をもとに実施した食育講習会を通じて「メディア利用をコントロールし、生活リズムを整え体調を管理することの大切さ」について情報発信をしている。文化委員会との連携では、「絵本に出てくるお菓子作り」など生徒たちが自主的に企画し活動を行っている。

### 3 成果

このように地域の方々からのご指導による学びや食育教材の開発など様々な活動を通じて、生徒たちは、地域の特産物を活用した朝ご飯メニューなどを考案し、各種レシピコンテストにも積極的に応募した。地域の行事食について家族や地域に聞き取り調査をし、受け継ぎたい味や地元の食文化について研究する生徒も出てきた。食生活の重要性を認識し、自分自身の食生活について課題を改善していくこととする意識を向上させただけでなく、学んだことを家庭や地域で実践していくこととする意欲の高まりが見られたことが成果である。

る。

### 4 終わりに

自分自身の生活について課題意識を持ち解決しようとする力、地域と連携した活動の中で自分だけでなく地域の課題にも目を向け解決しようとする力、様々な体験を通して技術を習得し家庭や地域社会で実践しようとする力を身に付けさせたいと考え実践を積み重ねてきた。

食育ボランティア活動では、活動を繰り返すことで、必要な知識やマナーなども身に付けることができた。さらに、身に付けた知識をもとに思考を深める諸活動を、生徒が主体的に見つけていくきっかけや、学んだ成果を他に発信していく自信にもつながったと思われる。

家庭科では、人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉えることが重視されている。乳幼児期から高齢期に至るそれぞれのステージにおける現状と課題について理解させ、社会の一員として主体的に生活に関わる態度を育てていくことが大切である。生徒の生活体験が少なくなつた現在にお

いて、授業や学校家庭クラブ活動などでの体験を通して得た感動や達成感は、さらなる意欲や向上心へつながるのではないかと思う。

平成27年度に、中学校を併設した本校においては、6年間を見通した「生きる力」を育む家庭分野の学びの充実と実生活での実践が求められている。今後、家庭科だけでなく他教科とも連携し、学校全体での活動をさらに広げ、地域と関わることで、人と人、人と社会とのつながりを意識し、自身自身や地域の問題に目を向け、主体的に行動できる生徒を育てたいと考えている。



幼稚園での食育ボランティア活動(幼児食育ダンス)